

第39番 延光寺

●高知県宿毛市平田町中山390
☎0880-66-0225
●宿坊/なし



第40番 観自在寺

●愛媛県南宇和郡愛南町御狂平城2253-1
☎0895-72-0416
●宿坊/あり(素泊りのみ、要予約)



沿線の見どころ



宿毛市立宿毛歴史館

宿毛の町の歴史や宿毛市ゆかりの人物を、模型や映像、パネル、遺品をはじめとした貴重な展示品によって、わかりやすく紹介した歴史館。「歴史展示室」では、城下町として栄えた江戸時代の町並みをジオラマと美しい映像によって再現している。



境内の見どころ



眼洗いの井戸

境内の庭園の片隅にある眼洗いの井戸は、弘法大師が水不足に困っていた住民のために、錫杖で地面を突いて湧き出させたという霊水。眼病にご利益があるとされ、「宝医水」と名付けられている。祈願するために、実際にこの水で眼を洗う参拝者がいるので、賽銭などを井戸に入れるのは控えたい。



境内の見どころ



赤亀(梵鐘)

亀の背に乗っているのは「延喜十一年」の銘が刻まれた梵鐘。実物は寺宝として大切に保管されており、国の重要文化財。赤亀が亀宮城から持ち帰ったとされ、「赤亀山」という号の由来にもなっている。この梵鐘は明治時代に県議会の開会・閉会合図に使用するため、高知県庁に出張していたというエピソードもある。

所 高知県宿毛市中央2丁目7-14
☎ 0880-63-5496
時 8:30~17:00
休 月曜(月曜が祝日の場合翌日)、12/29~1/3
高 高校生以上200円(各種割引有)



日本遺産「四国遍路」~回遊型巡礼路と独自の巡礼文化~

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エスピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に

2017年3月作成



広い境内に本堂と大師堂が建つ静かな寺

第39番

赤亀山 延光寺

しやくきざん じさんいん えんこうじ

山村の寺で修行の道場を終える

歴史・全体像

神亀元年(724)、聖武天皇の勅願を受けて行基が開基。当時は亀鶴山施薬院宝光寺と称していた。本尊は行基自らが刻んだ薬師如来。延暦14年(795)、弘法大師が来錫し、日光・月光の両脇侍を安置し、霊場に定めて再興した。延喜11年(911)、赤亀が梵鐘を背負い、海中から現れたので、その時に寺号を赤亀山寺山院延光寺と改める。その梵鐘は高知県内でもっとも古いとされる。中世に入り、大いに栄えたものの近世には衰退。さらに明治の廃仏毀釈で一時は廃寺となる。しかし、ほどなく再興された。寺から約500m離れた場所には奥の院・南光院がある。

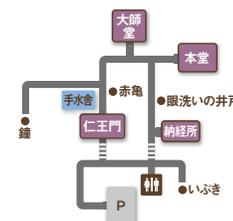
境内

仁王門の前には無人市が常設され、巡礼に便利な道具や地元のお土産などが売られている。石段を上がり境内に入ると、右手には、亀宮伝説を象徴しているという、梵鐘を背中に乗せた赤亀が。本堂は広々とした境内の右奥にあり、その隣にはひとまわり小さな大師堂がある。本堂の向かって右手には庭園があり、その前に眼洗いの井戸が残されている。境内を抜けたところにある中庭には、周囲2.7m、高さ約10mの「いぶき」の木がある。幹は傾斜しているものの、樹齢約500年にして、波打つようなコブが強い生命力を感じさせてくれる。宿毛市指定の天然記念物。

御詠歌/なむ薬師諸病悉除の願こめて
詣る我が身を助けましませ
本尊/薬師如来
真言/おん ころころ せんだり まとうぎ そわか
宗派/真言宗智山派
開基/行基菩薩



整然としたフォルムが美しい本堂



歩き遍路のための
「四国遍路」巡礼マップ

第39番 延光寺



第40番 観自在寺



JAPAN HERITAGE

日本遺産

